

科目ナンバー： 研究・CNS：MC7013／助産：MmC7013

授業コード： 6630700100

講義科目名称： 老年看護学特論 I

英文科目名称： Advanced Gerontological Nursing I

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択 老人看護CNS必修
担当教員			
◎小長谷百絵、原等子、島田玲児、古矢奈緒美、帆苺千絵			
添付ファイル			

授業種類	【開講】 前期	【授業時間】 30時間		
	【担当教員】			
	氏名	【所属】	【研究室】	【メールアドレス】
	◎小長谷 百絵	新潟県立看護大学	213	konagaya@niigata-cn.ac.jp
	原 等子	同上	303	naohara@niigata-cn.ac.jp
	島田 玲児	新潟市民病院		
	古矢 奈緒美	柿崎市民病院		
	帆苺 千絵	まるごと訪問看護ステーション		
	【本学の科目区分】 専門分野			
		【DP1】	【DP2】	【DP3】
	研究	◎	◎	○
	CNS	○	○	○
	助産			

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年看護に活用可能な代表的な理論・アプローチについて、概念・内容・適用方法を説明できる。 2. 老年看護学の独立ならびに老人看護専門看護師制度の創設の背景・目的・役割機能を説明できる。 3. 老年看護の実践現場で生じやすい倫理的問題やジレンマとその解決のための専門看護師の役割を説明できる。 4. 倫理観醸成のための方策を述べることができる。
------	---

授業概要	<p>老年高度実践看護の基盤として、老年看護に活用可能な既存の理論・アプローチについて、概念・内容、適用方法と適用上の留意点などを学修する。また、学士課程における老年看護学の独立とその背景ならびに専門看護師制度の創設の背景と目的、求められる役割機能を理解し、老人看護専門看護師の国内外の活動の現状と課題を検討する。さらに、老年看護の実践現場において生じやすい倫理的問題やジレンマとその対応策および、倫理的感受性を鈍麻させる要因を検討し、倫理観の醸成・向上を図るための方策を検討し、老年高度看護実践者としての役割を追究する。</p>
------	---

授業計画	<p>1 授業内容 授業形態：講義 学修課題：授業のガイダンス 学修内容：・授業の目標・内容・方法（進め方） ・評価方法、受講・課題・資料配布等のルール、参考図書などについて 事前学修：シラバス全体を概観する 事後学修：シラバス全体における本科目の位置づけを再確認する 備考：小長谷,原</p> <p>2 授業内容 授業形態：講義 学修課題：老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容：・老年医学看護の主要理論について学ぶ① 「発達段階と生涯発達理論」 事前学修：生涯発達理論を学修したうえで看護実践は何を問い直す必要があるか、具体例を挙げる 事後学修：自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを、具体的に振り返る 備考：小長谷,原</p> <p>3 授業内容 授業形態：講義 学修課題：老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容：・老年医学看護の主要理論について学ぶ② 「aging」 事前学修：ageingとはなにか、どう解釈し支援につなげるかについて学修する 事後学修：自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを、具体的に振り返る</p>
------	--

4	備考： 小長谷, 原 授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容： ・老年医学看護の主要理論について学ぶ③ 「ケアリング理論」① 事前学修： ケアリング理論を代表する理論家それぞれのケアリング理論を解釈しどのように高齢者看護支援につなげるか述べる 事後学修： 自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを，具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原
5	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容： ・老年医学看護の主要理論について学ぶ④ 「ケアリング理論」② 事前学修： ケアリング理論を代表する理論家のそれぞれの理論を解釈しどのように高齢者看護支援につなげるか述べる 事後学修： 自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを，具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原
6	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容： ・老年医学看護の主要理論について学ぶ⑤ 「ストレングス理論」① 事前学修： ストレングス理論を学修し解釈したことを高齢者看護への応用について学修する 事後学修： 自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを，具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原
7	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容： ・老年医学看護の主要理論について学ぶ⑥ 「ストレングス理論」② 事前学修： ストレングス理論を学修し解釈したことを高齢者看護への応用について学修する 事後学修： 自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを，具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原
8	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容： ・老年医学看護の主要理論について学ぶ⑦ 「エンパワメント理論」① 事前学修： エンパワメント理論を学修し解釈したことを高齢者看護への応用について学修する 事後学修： 自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを，具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原
9	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容： ・老年医学看護の主要理論について学ぶ⑧ 「エンパワメント理論」② 事前学修： エンパワメント理論を学修し解釈したことを高齢者看護への応用について学修する 事後学修： 自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを，具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原
10	授業内容 授業形態： 講義 学修課題： 老年看護に活用できる理論・アプローチの理解 学修内容： ・老年医学看護の主要理論について学ぶ⑨ 「コンフォート理論」 事前学修： コンフォートの定義を学びどう解釈し支援につなげるかについて学修する 事後学修： 自身の高齢者理解・看護判断が学修前と比べてどのように変化したかを，具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原
11	授業形態： 講義 学修課題： 学士課程における老年看護学の独立と，専門看護師制度の創設背景・目的・役割機能および活動の現状と課題 学修内容： ・老年看護高度実践者としての活動の実際① 事前学修： P. Bennerの熟達化モデルを概観し活動の背後にある卓越性について聴く準備を整える 事後学修： 自身の高齢者への看護ケアを具体的に振り返る 備考： 小長谷, 原, 島田, 古矢, 帆苅
12	授業形態： 講義 授業形態： 講義 学修課題： 学士課程における老年看護学の独立と，専門看護師制度の創設背景・目的・役割機能および活動の現状と課題 学修内容： ・老年看護高度実践者としての活動の実際② 事前学修： P. Bennerの熟達化モデルを概観し活動の背後にある卓越性について聴く準備を整える

	<p>事後学修：自身の高齢者への看護ケアを具体的に振り返る 備考：小長谷，原，島田，古矢，帆苺</p> <p>13</p> <p>授業形態：講義 学修課題：学士課程における老年看護学の独立と，専門看護師制度の創設背景・目的・役割機能および活動の現状と課題 学修内容：・老年看護高度実践者としての活動の実際③ 事前学修：P. Bennerの熟達化モデルを概観し活動の背後にある卓越性について聴く準備を整える 事後学修：自身の高齢者への看護ケアを具体的に振り返る 備考：小長谷，原，島田，古矢，帆苺</p> <p>14</p> <p>授業形態：講義 学修課題：老年看護における倫理的問題と専門看護師の役割 学修内容 自施設における倫理的問題やジレンマの事例についての取組と課題（事例検討） 事前学修：看護ケアにおけるモヤモヤした事例や困った事例を整理した資料の作成 事後学修：自己の看護の取り組みと課題を明確にする 備考：小長谷，原</p> <p>15</p> <p>授業形態：講義 学修課題：老年看護における倫理的問題と専門看護師の役割 学修内容 自施設における倫理的問題やジレンマの事例についての取組と課題（事例検討） 事前学修：看護ケアにおけるモヤモヤした事例や困った事例を整理した資料の作成 事後学修：自己の看護の取り組みと課題を明確にする 備考：小長谷，原</p>
事前・事後学習	<p>事前学修：自己の看護実践を振り返って授業に臨む。 事後学修：本科目と既習の学習内容を比較考察し自己の看護実践を振り返る。</p>
評価方法、評価基準	到達目標1～4に対して事前学習状況30%，授業時の貢献度（発表・討議）40%，課題レポート30%により評価する
テキスト	最新の論文や文献を使用するため、現時点では指定せず授業内で案内する
参考図書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・平井俊策編（2005）：新・老化学，ワールドプランニング。 ・プリシラ・エバーソール，バトリシア・ヘス（2007）：ヘルシー・エイジングー人間のニーズと看護の対応，エルゼビアジャパン。 ・ラップ，チャールズ・A.，ゴスチャ，リチャード・J. 著，田中英樹監訳（2008）：ストレングスモデルー精神障害者のためのケースマネジメント，金剛出版。 ・E. H. エリクソン，J. M. エリクソン，H. Q. キヴニック著，朝長正徳ほか訳（1990）：老年期，みすず書房。 ・パット・セイン著，木下康仁訳（2009）：老人の歴史，東洋書林。 ・瀬口晶久著（2011）：老年と正義，名古屋大学出版会， ・安西篤子著（2003）：老いの思想，草思社。 ・キャロライン・バード著，西岡公ほか訳（1985）エイジレス人間の時代ー不老社会を築くパイオニアたち，ABC 出版。 ・安西信子ほか著（1988）：成熟と老い，世界思想社。 ・小野寺健著（2002）：フォスター老年について，みすず書房。 ・リンダ グラットン，アンドリュー スコット著，池村 千秋訳（2016）：LIFE SHIFT 100年時代の人生戦略，東洋経済新報社。 <p>*その他，授業の中で随時紹介する。</p>
受講、課題、資料配布等のルール	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は基本的に学習課題・内容について学生が事前学習し，レポートを作成して発表するとともに疑問点や不明点，討議したい内容などについて討議して進めるゼミ形式とする。 ・事前学修の提出は，授業日の前日までに科目担当者に提出する（メール可）。 ・授業後のレポート課題 「学修した理論，アプローチを事例に適用しての学び（適用上の課題を含む）」 *詳細は初回開講時にガイダンスする *COVID-19 の感染状況に応じてオンライン授業にする（事前に連絡する）
教員からのメッセージ	<p>老年高度看護実践者として高齢者個々の健康的生活を支援するには，既存の理論やアプローチを理解し，実際に適用して評価し，その意味を検討することが大切です。これまでの実践経験を理論的に評価してみることも必要かもしれません。さらに，高齢者看護の方法論（援助論）の開発に繋げていくことも大切です。まずは，高齢者看護の理論的根拠になる様々な理論やアプローチを修得しましょう。</p>
オフィスアワー	随時（メール調整）